

北米大陸にヨーロッパの人々が移住してきた時期、そこには数十億羽のリョコウバトが生息していた。美味と良質の羽毛が原因で大量に捕獲され、二〇世紀初頭に最後の一羽が死亡して絶滅した。その絶滅に影響したのは一九世紀になって敷設が開始され、リョコウバトの生息地域の大陸中央と大消費地の東部海岸を連結する大陸横断鉄道による大量輸送であった。

これは技術によるマイナスの歴史の一例であるが、交通手段や通信手段などが社会問題を解決する事例も登場している。二〇世紀中頃に登場したコンピュータとインターネット、そして二一世紀の初期に発明されて急速に普及したスマートフォンという情報技術が一体となって新規のサービスを登場させてきた。

アメリカの著名な情報雑誌を編集していたC・アンダーソンが二〇〇六年に出版した書籍『ロングテール』では、大型書店は売上の上位一万番目くらいまでしか書棚に陳列しないので、それ以下は購入される機会がないが、インターネット書店ではカタログに掲載された一〇万番目くらいまで購入されるという現象を説明した。

これは販売する書店と購入する読者という実体空間の関係をインターネット内部に構築しただけであるが、販売する立場と購入する立場の両者が構成する市場をインターネット内部に創造したのがマッチングサイトである。利用しておられる方々には不要の説明であるが、情報空間に開設されたフリーマーケットである。

これまで現実空間には青空市場という名前のフリーマーケットが存在していたが、それらは限定された日時と場所で開催され、出店する店舗も販売する商品も限定されている。さらに出店時間には人間が常駐する必要もあった。しかし情報空間のフリーマーケットにはそれらの制約がない結果、巨大な規模に成長している。

日本最大のマッチングサイトは二〇一三年からサービスを提供している「メルカリ」であるが、その規模を証明する数字がある。日本の年間の宅配便配達数は約五〇億個であるが、「メルカリ」で売買される雑貨の配達が一〇%弱と推定されるので、単純に平均すれば国民一人につき五個程度の荷物の売買を仲介している計算になる。

これは廃棄物を減少させているが、同様の効果を発揮するマッチングサイトがある。日本には長期不在の空き家が三五〇万戸存在しており、それを対象に「空き家ゲートウェイ」というマッチングサイトが登場し、一部は土地と一体で〇円とか一〇〇円という驚嘆するような値段で紹介され、実際に売買が成立し利用されている。

日本の二〇二〇年の生涯未婚比率は男性二七%、女性一八%である。一九九〇年には六%と四%であったから急増である。結婚は個人の自由であり、強要できる対象ではないが、若者が拒否しているわけではない。その証拠は見合いのマッチングサイトで、過去五年で利用者数は対象世代の九%から二一%に増加している。

マッチングサイトは情報社会の基幹となるコンピューター、インターネット、携帯電話を駆使したビジネスで、数例ではあるが社会に存在する廃棄物、空き家、未婚者という課題の解決に貢献するサービスを紹介した。日本だけではなく世界が直面している課題にマッチングで挑戦すれば、新規のビジネスを誕生させる機会が豊富に存在していることになる。